

C分科会

子どもの発達段階に応じた運動プログラム

座長 / 木村和彦

パネリスト / 内藤久士、森丘保典

C分科会のテーマは「子どもの発達段階に応じたプログラム」。文部科学省の研究委託事業として、日本体育協会が着手している「子どもの発達段階に応じた体力向上プログラムの開発事業」の調査報告や研究成果に基づく問題提起が行われました。

まず、本分科会の座長兼パネリストを務めた早稲田大学スポーツ科学部教授の木村和彦氏から、少年団の指導者を対象とした「基礎的な動きづくりや体力づくりの実態」の調査報告がありました。調査の結果、少年団の指導者はその重要性について高い意識を持ってはいるものの、実際に工夫して行っている団は半分以下と、意識と取り組み状況に乖離があることが指摘されました。

次に、順天堂大学スポーツ健康科学部准教授の内藤久士氏からは「体力向上実践事業モデル地域における調査研究」をテーマに、文部科学省の事業として行われた子どもたちの体力向上への取り組みや、事業の追跡調査の説明がありました。その結果、子どもたちの体力向上には学校だけでなく、少年団を中心とした地域が協力していくことが必要ではないか、という提言がありました。

そして、日本体育協会スポーツ科学研究室研究員の森丘保典氏からは「身体活動量と健康指標研究」の発表があり、子どもたちに望まれる身体活動量や、子どもたちの基礎的な動きを強化する指標を開発中であることなどが、紹介されました。

最後に木村氏から、今後は具体的な取り組みに対する検証を進め、その結果を報告したいというまとめがあり、C分科会は終了しました。